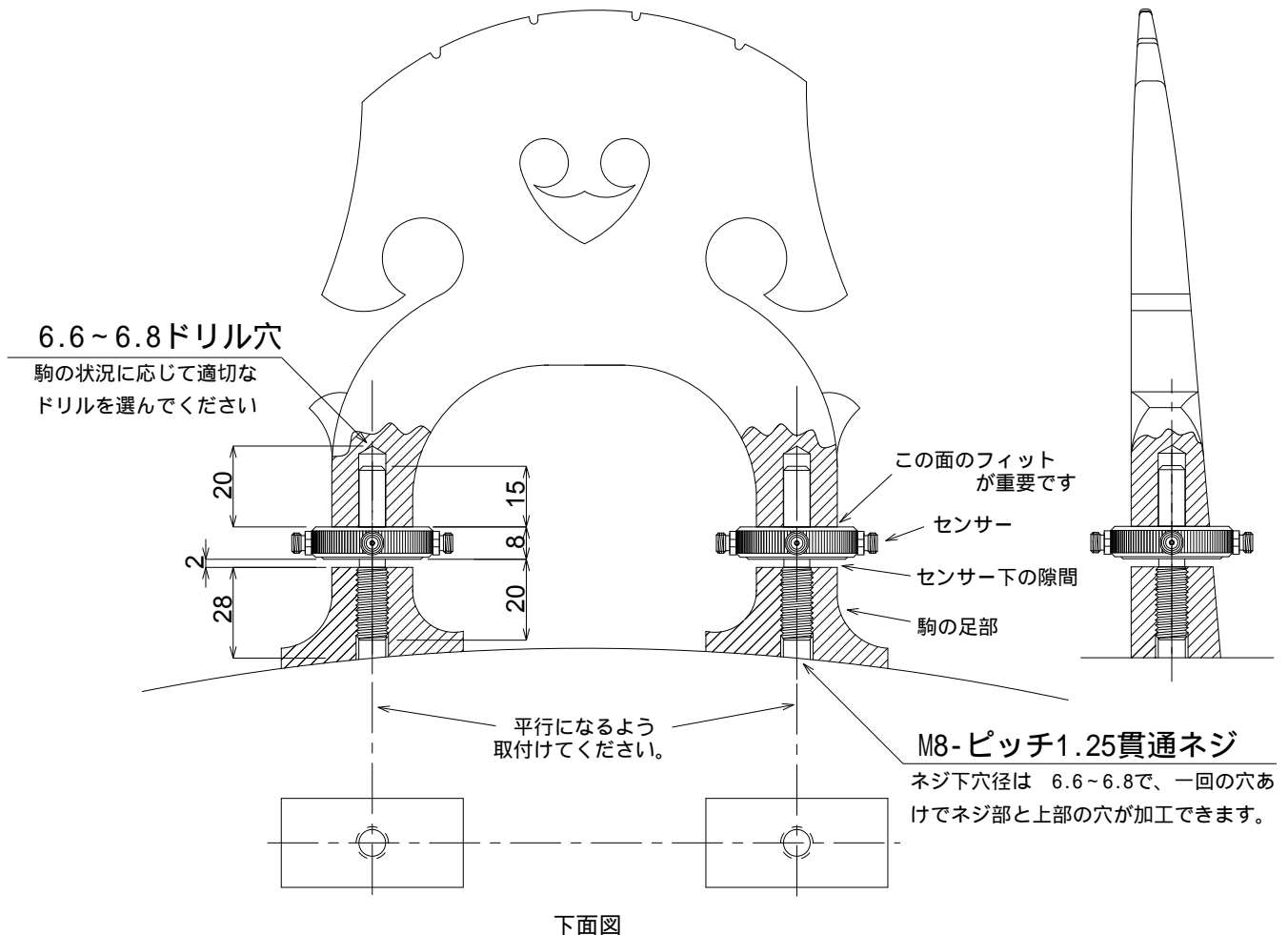


山彦ベースピックアップ CPS-DB型 取付け図 Ver.2.0

この図は取付け状態の一例を示すものです。
この図は駒の高さを最も下げた状態です。
寸法はmm (ミリメートル) で表示しています。



取付けに関するご注意

1. センサー上面と駒との接触面はなるべく隙間なくフィットするようにしてください
この接触面を通じて弦振動が表板に伝わるので、特に重要な場所です。なるべく多くの面積で駒とセンサーが接するよう、面のアタリを出してください。
センサー下部のネジと駒の足部の接触は、ネジがうまく立っていれば、ネジの山面にて程よい振動伝達が得られますので、大きな問題となることはありません。
2. 駒の足部のネジについて
タップを用いて木材に雌ネジをたてる際、ネジ穴が細くなる傾向があります。これは金属に比べて木材が柔軟であるため、ねじ切りが不完全となる傾向が強く、ネジ穴が細くなるものです。このため、ねじ切り時に何度もタップを抜き差しし、タップが軽く回転するようになるまで十分ネジを切ってください。十分なネジが切れていない場合、しばらくして湿度が上がったときなどに、木部のネジ穴が小さくなり、センサーと駒の足部が固着して動かなくなることもあります。
ロウソクのロウなどをネジ穴とセンサーのネジ部に付けてから組み立てることにより、スムーズに回転するようにできます。同様にセンサー上面と駒の接触面にもロウを塗ると効果があります。このようにすれば、楽器に駒を取付けた際センサーが軽く回転し、楽に弦高の調整が出来るようになります。
3. センサー下の隙間について
弦高を最も下げたときでもセンサー下の隙間が少しあいているようにしてください。ここが接触するとピックアップ音が不自然になることが多いようです。